



オアシス

オアシスとは「広辞苑」によりますと「砂漠中で水がわき、樹木の繁茂している沃地。生物群集の形成、隊商の休息などに役立つ。慰安となるもの。また、その場所。」とあります。

厳しい、混迷な社会情勢の中で歯科界もその流れに翻弄され、会員の皆さんは真に砂漠の中にいる感じです。そのような乾いた状態だからこそ、皆さんの湧水のような潤いのある討論等が求められると思います。

字数、形式、格調にとらわれずご投稿下さい。会に対する意見、希望、家庭内やグループのこと、又、過去の思い出、現在の心境、未来への期待などなんでも宜しいです。



旅のデッサン ～NZゴルフ&ドライブ紀行～

南部地区会員 照屋 均

1. 旅への誘い

4月末からの連休に、ニュージーランドの北島でゴルフをした。友人の誘いに乗ったのである。6日連続、毎日コースを変えての6.5ラウンド。恥しい話だが、はるばる赤道も越えながら、観光もせず、毎日無心に球を打ち、クルマで移動の繰り返し。ただそれだけの酔狂な旅である。

しかしそれはとても贅沢な旅だった。

「GWにNZに行くけど、照屋、お前も行かないか？」

「NZはあまり知られてないけどゴルフ天国、素晴らしいコースがあり、季節も秋、紅葉で最高だよ」

大学時代の友人、福井の窪田君の誘いがあったのは1月の下旬だった。

私に負けず劣らずのゴルフ好きである。海外にも旅慣れし、仕事も遊びも、そして会務もエネルギーにこなす。

彼は前年のGWにすでにNZゴルフツアーを経験済みだった。また行くという。

「パスポートと国際免許とカード、それだけあれば十分。あとはついて来ればいい！」

宿やコースはネットで予約し、移動はレンタカーのセルフドライブだ。食事は行く先々で臨機応変にという、ツーリストの関わりやガイドもない手作りの旅である。費用はよくわからないが、それなりに安く上がるのだろう。

旅のプロデュースは香港にて金融投資業を営む星山さんという神戸出身の方。ゴルフの腕前は香港のホームコースにてクラブチャンピオンになるぐらいの強者である。彼のライフワークを聞いたときは驚いた。それはアジア、オセアニア地区の



Cape kidnappers GC
アメリカの投資王ジョージソロスが作ったコース
すべてがラグジュアリー 今回の目玉

名のあるゴルフコースでプレーをすることで、目標はなんと1,000コース制覇だという。

彼は自らブログを立ち上げ、ラウンドしたコースを紹介しながらその難易度、魅力度などの評価付けをしている。現在650コースほどをプレー中。去年は沖縄本島にも来てプレー、宮古や石垣島も合わせて10コースほどを回っている。興味のある方はぜひ「KIMI GOLF」、と検索してほしい。(但し今回のツアーはまだアップしていない。)

ゴルフ愛好者は星の数ほどいるが、彼のゴルフへの高い見識、卓越した評論、費やしてきたエネルギーには畏敬の念を抱かざるを得ない。今回のツアーも彼にとっては1,000コース制覇のための1ページにすぎない。

他のメンバーは福井、東京、兵庫からの参加で、各々が時間もばらばらの現地集合であり、成田で合流した友人の窪田君以外は初対面の6人となった。

「いつかはゴルフ三昧の旅がしたい、それも海外で…」という昔からの夢の実現である。「そろそろ自分のためにお金と時間を存分に使う贅沢を味わってもいいかな…」という淡い思いが一気に膨らみ、自分でも驚くほどの即決即答だった。

ニュージーランドは去年の2月、大地震があった。多くの日本人犠牲者がいたが、実はその中に私の患者さんがいた。去年、沖縄歯科研修同好会の症例発表会にて「震災時における歯科医の役割」という演題で発表したのもそれがきっかけだった。彼女は国際看護師を目指し語学留学、志し半ばでの惨事だった。

現地に赴いた親族の方からの要請で治療時の詳細とX-Pを速やかに提供、身元の確認ができない多くの犠牲者の中で、彼女は2番目に確認された。受話器から聞こえてくるお姉さんの焦りにみちた悲痛な声が今でも耳に残っている。

誘いを受けた日の夜、早速パソコンに向かい、エアーチケットをさがす。胸を痛めた一年前のニュージーランドとの関わりを思いながら、HISのホームページからなんとか予約を完了する。

出発地は成田、そして到着はもちろん北島の最大の都市オークランドだ。



NZ航空機のオールブラック仕様
機体にはcrazy about rugbyの文字が



オークランドスカイタワー328m スカイツリーもマカオタワーもこれを真似たか？バンジーができる！

2. いざ、ニュージーランドへ

直行便は成田からオークランドまで約11時間かけて飛ぶ。時差は3時間向こうが早い。成田を午後7時に離陸し、翌朝の9時45分にオークランド到着。ここで関西空港から来た山本さんと合流する。山本さんは福井県の歯科医、彼も窪田君に誘われた。5歳ほど先輩のジェントルマンでハンデ4までいったらしい。そのスイングにはやはり片手シングルの品格が漂う。



The Grange GC練習グリーン、スタートオフィス 各々手前の手引きカートを利用する人多し、左は1番ティー。もちろん歩き、キャディーなし。これがゴルフの原点。

早速、三人で郊外のゴルフ場へ。そこは市民が気軽にできる親しみやすいゴルフ場の趣、しかし歴史は古く開業が1920年代である。空港から近いので移動はタクシーを利用した。車種はトヨタのプリウスだった。

ニュージーランドには自国の自動車産業は存在しない。すべて輸入である。2011年の販売台数約6万4,000台でトップはトヨタの1万2,300台、他はホンダなど日本車が圧倒的に多かった。



利用したレンタカーによく似た白いバンが走っている。歴史的建造物らしい建物。オークランド市内

人口は437万人、沖縄の約3倍ほどだ。しかし羊と牛はその10倍もいる。国土は日本の約4分の3。北島が九州の2倍、南島は3倍といったほうがわかりやすいか。酪農と観光、この二つがニュージーランド経済を支えている。

観光の重心は南島にある。トレッキングやフィヨルド、クルーズなどで知られるミルフォードサウンド、世界一星空の美しいレイク・テカポ、南半球のアルプスと称される標高3,754メートルの最高峰マウント・クックなど。

青い空と美しい緑、ニュージーランドの魅力は豊かな大自然だ。

北島は南島のような多彩な観光地を持たないが、自然の豊かさでは負けていない。「ロードオブザリング」や「ラストサムライ」が代表するように、ハリウッドや世界の多くの映画人がそのロケ地として北島に足を運ぶ。そして人口も政治も経済も、重心は北島にあり、ゴルフ場も圧倒的に北島にある。

人口あたりのゴルフ場数（400コース）は世界2位であり、100年以上の歴史のある伝統的なコースから、アメリカ人の大富豪が作った世界的な名コースまで多彩な取りそろえてゴルファーを楽しませてくれる。

オークランドでの初プレー後、再び空港に向かった。首都ウェリントンに行くのだ。ウェリントンは北島の南端にあり、1時間のフライトである。ホテルに着くと、前述の星山さんと東京からきた紅一点の浜垣さんが待っていた。これで5人になった。



ウェリントンは古い歴史をもつ港町、小樽や長崎のような坂が多い
ニュージーランドはヨットの保有率世界1位



私の左が窪田君、右に山本先生と星山氏



店の名前はLogan Brown 店内は中世ヨーロッパ?の雰囲気

早速現地が一番と評判のお店で夕食、親交を深める。もちろん話題の中心軸はゴルフ。皆フェアウェーを外すことなく熱く語る。そしてそれを彩るのは地元産のフレッシュな赤ワインと濃厚なソースの骨

付きラム肉～素晴らしい旅の予感を感じさせる最高のウェルカムディナーだった。

街を歩いてすぐ気付いたのが街の雰囲気が“質素、地味”であるということ。特に華やかであるはずの若い女性のファッション、明るい色彩の服を着ている人がいなかった。老若男女、黒が基調のダークな服を着ている。

「英国カラーの反映でしょうかね?」「国の誇り・象徴であるラグビーのオールブラックスへの愛着でねえか?」～などと会話を交わしながらホテルへ戻り、長い一日が終わった。

3. 旅の手助け～ナビとストリートビュー

2日目からはいよいよレンタカー、11人乗りトヨタのライトバンによる移動である。飛行機で南下した距離700キロあまりを5日かけてクルマで北上していくのだ。この日の移動はウェリントンからゴルフ場までと、そこから次の目的地、ヘイスティングHastingsという街までの約300キロの長い行程である。Hastingsの近くにはネイピアNapierという瀟洒な観光地がある。パルプ原木の輸出港としても有名であり、そのほとんどは日本向けだ。ティッシュのネピアという製品の名前はそこからのネーミングなのだ。この日の運転は前半窪田で、後半は私が行った。

ニュージーランドは日本と同じ右側通行であり、クルマとヒトは比較にならないぐらい少ない。渋滞の経験も最終日のオークランド市内のみで、ひとたび郊外に出ると、旅行前に抱いた不安など忘れるぐらいに快適にドライブができた。

僕らが走った道路はハイウェイ（国道）と、モーターウェイと呼ばれる無料の自動車専用道路で、ほとんどが片道一車線であった。しかし制限速度はどちらも百キロ。状況によっては百二十キロオーバーも可能だ。それもクルマが少ないからだ。

ニュージーランドは日本と似た山の多い地形である。しかし日本のようなトンネルや陸橋はついで一度も見ることがなかった。地形に沿って道を作り、非効率な迂回も許容する。ニュージーランドの国是である、可能な限りの自然環境保護優先が道路づくりにも反映されているようだった。

山道を走っていて気に入ったのがある。「急カーブ注意」の交通標識だ。急カーブにさしかかると、40、50、60のようにカーブ標識に数字が描かれている。ここは時速40キロ以下で運転すれば無理なくハンドルが切れますよ、ここは50キロ以下でね、という合図なのである。それに気が付いてからは安全快適なドライブを楽しむことができた。日本でも採用してもらいたいアイデアだ。

目的地に導いてくれるナビは、日本車だと標準装備が当たり前だが、こちらではオプションであった。吸盤でフロントガラスにくっつける画面の小さいポータブルナビだ。根管長測定器の画面を少し大きくしたぐらいである。ナビへの視線は正面に近いが、設置場所が遠くにあり、小さいから見づらいことこの上ない。「この道をまっすぐに」とか「次を右にまがりなさい」とか優しくなさそうな女性の音声～もちろん英語～よけいに聞き取りにくい。結局、助手席からのナビをナビする、アシスト役が最後まで必要だった。



2日目のロイヤルウェリントンGC オーガスタのようなクラブハウス。百何十年と歴史は古い、何度か迷子になった。山本先生と

他の海外のナビ事情は知らないが多分これが世界標準なのだろう。日本の親切すぎる工業製品に慣れすぎてつい愚痴もでてしまうが、この類のことは海外ではよくあることだ。これも旅の一部とわりきって楽しむしかない。

今回、初めての海外でのクルマの運転ということもあり、旅行の前に“ストリートビュー”なるものをかなり見た。グーグルが提供する無料のサービスサイトである。地名や番地を入力し、地図の左上にある黄色い人形をドラグするだけで、行く先々の画像情報を360度の全方向位で鮮明に、そして瞬時に見せてくれる。その土地の空気の高さまで伝わりそうな画期的なシステムだ。



番外編

ストリートビューからの一枚 スコットランドのターンベリーGC全英オープンコース
ゴルフ漫画「風の大地」の舞台になった。右はクラブハウス 前へ進んでいくと白い灯台がはっきり見えてくる。

ロンドンのアビーロードを出せば気分はビートルズ、ローマのコロシウムを一周するなんて芸当も簡単だ。でも一番面白かったのは最初に利用してみた学生時代のアパート探しかな…。

初日のウェリントンのクラシカルなホテル外観、二日目のモーターロッジまでの街の様子、三日目のゴルフ場への進入路など、など、パソコン画面から現地のイメージを焼付ける。

小さい頃から地理が好きだった。今でも地図を飽きずに見入ることができる“地図男くん”にとってこのストリートビューは心躍る知的なおもちゃだ。備えあれば百戦危うからず…あとは英語ができれば世界中どこでも行っちゃうのだが。

4. いよいよ珠玉の名コースへ

行程はまだ3日目である。ニュージーランドにはアジア人が1割と意外と多い。イギリス圏なのでインド人も多く、前夜は本格的なインド料理を堪能した。

この日からは兵庫県からの加藤さんが合流する。これで全員集合である。彼はゴルフ場の社長さん。そのゴルフ場は日本オープンの開催歴もある超有名コースで、御本人も日大ゴルフ部出身である。最初のティーショットを見ただけでその腕前が半端でないのがわかった。

最後は細身で一見愛らしい浜垣女史について。彼女はゴルフの求道者、パターからドライバーまですべてのクラブで一定のスピンをかける。それはひたすら力まかせに打つ男子に見せつけるかのようだ。聞けば関東倶楽部対抗戦（インタークラブ選手権）の埼玉県代表という。百戦錬磨の猛者なのだ。かなわない訳だ。

結局、メンバーの中で窪田君と私の二人が愛すべきダフターの役回りだった。とほほ！

そんなチーム星山もいよいよ今ツアーのハイライト、ケープキッドナッパーズGCでのゴルフである。途中のクルマの中、皆、遠足の小学生のようにはしゃいで胸を躍らせている。

それもこれも、こんないい大人をワクワクドキドキさせるようなコースが待ち受けているという証でもあるのだ…。



グリーン奥は断崖絶壁
ボールはこぼれるとフェスキュー芝へ



クラブハウス前 あまりに広大な練習場 誰もいない



バーディーカップインの瞬間 奇跡的?ショット



海に向かって強いフォロー
187ヤード 8番アイアンで打つ!

質素なクラブハウス外観だが
中はエレガントで洒落た造り



突然ですが、今回のツアー報告はこれにて終了です。ロンドンオリンピックで暫く筆が止まっている間に締切り日がきてしまいました。後半はゴルフの話がメインの構想でしたが、かわりに写真を多くアップし解説を加えました。ゴルフに興味のある方をご覧ください。パート2はありません。あしからず。

ニュージーランドは人々が自然に寄り添うように生き、質素ではあるが平和で素朴な国の印象を抱きました。周りには軍事的な脅威を与える国家もなく、また水力、風力、地熱発電など、再生可能なエネルギー利用が7割以上もあり、その比率は世界トップです。当然原発もありません。

「ここに住んだら日本に帰る気がしないよ」…現地に住んでいる知り合いの日本人の方の言葉にも納得です。

私にとって今回の旅は「ゴルフの神様に愛された8日間」でした。

30年ゴルフを愛し続けたご褒美だと思っています。素晴らしい出会いがあり一生の思い出に残る旅になりました。

帰国後に星山さんからは「来年はオーストラリアか南島に行きましょう」とのメールが届きました。また再現できるか定かではありませんが、それを日々夢見て毎日の診療に励んでいます。

おわり



4日目 Hastings GC 隣にローカル飛行場
星山氏バーディートライ



ここも100年以上の歴史 樹木がとにかくでかい



5日目 ニクラウス設計のキンロックGC 人生最大の難コースだ
った。後半はバックティーから回る 気持ちよく打ちのめされた



ロングの2打地点 41で左狙い 右ドッグ 写真ではグリーンもピンも不明



NZ最大の湖タウポを背景にした美しいショートホール 空気が澄んで空が青い



ゴルフ場入り口のポプラ並木 植栽は北海道に似ている



ここも簡素なクラブハウス ホールアウト後 疲れた～！



6日目Lake Resort GC
ゴルフ場の中に多くの別荘 初めての半袖



宿泊したロッジ (大家族が住めそうな別荘) 夜はかなり寒かった



クラブハウステラスから見た最後のホール 117ホール目 なんとかパーで終えた。感無量！

追記：たった今、この投稿文の最終的な推敲をしながら、パソコンに届いているたくさんのメールに目をやる。「おっ、TOKYOマラソン事務局からのがあるぞ。」

もしや…2013東京マラソン当選の通知メールだった。目を見開き、何度か画面を確認。間違いない！上下の歯をかみしめながら、少しだけ拳を強

く握りしめる。

今度は東京から福が来ました！

あっ、この報告はまずかったかも。米須先生の「また書いてください…」のお声が遠くから聞こえてくる。

「どのぐらいハッピーな気持ちでゴールインできるか…」しだいだと答えておきましょう。

まだまだ…来年のことだからね。